

N55a

## WZ Sge 型矮新星 EG Cnc のスーパーハンプと再増光

加藤太一・野上大作・馬場肇（京都大・理）、松本桂（大阪教育大学）

EG Cnc は古畑 (1983) によって発見された矮新星で、古畑の見いだした 1977 年のもの以来、確実なアウトバーストは観測されていなかった。アウトバースト間隔の長さ、爆発振幅の大きさから、矮新星の中でもこれまで約 3 例しか知られていない WZ Sge 型矮新星に属する天体と推定されてきた。1996 年 12 月 30 日 Schmeer によって観測史上 2 回目のアウトバーストが報告され、我々は京都大学大宇陀観測所 60cm 望遠鏡と大阪教育大学 51cm 望遠鏡を用いて CCD 測光を行った。その結果、この天体は WZ Sge 型矮新星である WZ Sge, AL Com と同様に、爆発初期と後期で異なった種類のスーパーハンプ現象を示すことが明らかになった。さらに約 2 週間の主アウトバーストの終了後、約 7 日間隔で小規模のアウトバーストを多数回繰り返す矮新星観測史上初の多重アウトバーストが観測された。この多重アウトバーストの期間にもこの天体は一貫してスーパーハンプ現象を示した。講演では、これらの観測的知見をもとに、同じく WZ Sge 型である AL Com でみられた 2 重スーパーアウトバーストと EG Cnc の多重アウトバーストの関連について議論し、同様の多重アウトバーストを示したブラックホール X 線新星 GRO J0422+32 の増光機構との関連についても考察する予定である。